

平成23年7月7日

国がストレステストの実施を発表したことを受けての
知事インタビュー



(知事)

今回の福島第一発電所の事故から4ヶ月も経ちましたが、経産大臣が安全宣言を出し、総理大臣もそれをお認めになっていた、停止中の原発の再稼働に向けての動きが出たと思ったこの時期になってストレステストの実施を打ち出したというのは真意をわかりかねている。

ストレステスト自体は技術的に安全確認の有効な方法の1つかもしれないが、福井県として要望して参りました、第一の点は、まずは福島第一発電所の壊滅的な事故を受け、我が国の基幹的なエネルギー源となっている原子力発電というもの自身に、今後どのような考え方を示していくか、この基本的な姿勢が示されない、明確になっていない状況でただ技術的な対応を、一つの方法を唐突に行うにしても、立地地域としては根本的な安心感が得られないと考えている。

立地地域においても、今後電力を日本全体に安定的に供給していく面からも、不信と混乱を一層招きかねないと思われる。

福井県としては3月11日の大災害による原発の事故を受けて、早い段階から、暫定的でもやむをえないから、国の指針を示す、そして津波に中心の緊急対策だけでなく、心配される地震による損傷がないか、また損傷の可能性が考えられる点がないか、チェックして定検に活かしていくよう求めている。

さらに、福島第一の調査検証が進むにつれて判明した、わかった課題を明らかにして、日本国内の原発の安全対策に一早くを活かせるよう要請している。

今、脱原発など、色々な議論があるが、我が国の現状を踏まえると、福島第一事故から多くを学んで原発の一層の安全を努力しながら、過度に原発に頼らないエネルギーの多様化を、時間をかけてすべきだと思う。

今回の原発事故を教訓にして、活かしていかなければならないし、世界もこれを見ていると私は思っている。

原発の安全や新しいエネルギー源の開発に向けて、我が国の技術力を結集して高めることに、経済産業だけではなく国際的にも評価を高めることができるのではないかと期待している。

福井県としては、エネルギー拠点化計画などを中心に、原子力発電の安全対策に加えて新しいエネルギー開発などの技術やシステム研究を積極的に進め、地域の発展に繋げていきたいと思っている。